

I D 問答～新たに始まった、我(ら?)が精神の放浪?!～

作：I & D

⑭「ポスト・トゥルース post-truth (脱・真実)」の示唆するもの?!

- I：ところで、最近、ひよんなことから(恥ずかしながら?)、標記の「ポスト・トゥルース post-truth (脱・真実)」という言葉(表現?)を知りました! ネット情報によると、「世論形成において、客観的な事実より、虚偽であっても個人の感情に訴えるものの方が強い影響力を持つ状況。事実を軽視する社会。直訳すると『脱・真実』とあります。
- D：「客観的な事実が重視されず、感情的な訴えが政治的に影響を与える状況を表している。」ということでしょうが、このことは、まさに、今回の米大統領選挙でも、大いに妥当するようですね! ある人の戦術が、皮肉にもそういうことだったのですが(一度は、その戦術で勝った!)、これらの現象は、まさに「ネット社会」が創り出した「モンスターor ファントム(怪物/幽霊)」とも言えると思います! しかし、最早その存在自体は認めなければいけない! 残念ながら、無視は出来ないということですよ?!
- I：「真実」が見えない? 「真実」に依拠できない? であれば、一体「真実 truth」の価値は、どうなっていくのでしょうか? 本当に困ったものです!
- D：要は、冷静に考えれば真実ではないと分かることも、「知人や家族がフェイスブックに書いていることなら信用できる」「ネットで検索したときに上位に挙がっている記事は正しい」などといった思い込みから、「フェイク・ニュース」、つまりデマ情報を真実と受け取る人々がいるということです! 実は、そのこと自体も、まさに真実だということになります!
- I：であれば、話は飛びますが、「VUCA(ブーカ)」の時代とは、そういうことも含んでいるのでしょうか? つまり、それは、「Volatility(変動性)」「Uncertainty(不確実性)」「Complexity(複雑性)」「Ambiguity(曖昧性)」の頭文字を合わせたものようですが、これからの社会(世界)は、そうしたものから成り立つ、そういうことでしょうか?
- D：そうとも言えるでしょうが、そのことも含めて、これまで、予測可能な時代の「PDCA」というものがありました。これからは、予測不能な時代の「OODA」(Observe 観察、Orient 状況判断・方向づけ、Decide 意思決定、Act 行動)が、重要な視点(手順)ともされているようですよ!
- I：改めて、何と言う時代なのでしょうね? 古い私達? は、ついていけませんね?
- D：しかし、そこでは、「AAR」(Anticipation 期待、Action 行動、Reflection 振り返り)というようにも言われており、私は、ある意味積極的に、そのことを歓迎しようとは思っています!
- I：少し? 軽薄なのではないですか? そこに、例の「真実」は、どのように絡まってくるのですか?
- D：そう言われれば言葉に窮しますが、例えば、「EBPM」ということが言われ、いわゆる「エビデンス(証拠→事実?)」が重宝がられるわけですが、その前提にある「PDCA」のP、すなわち「プラン」が、予測可能な状況の中であれば、一定の役割も期待できるのですが、状況そのものが、まさに「ブーカ」のそれであれば、たとえ手順は正当なものであっても、その成果(本当のエビデンス?)を担保するものとはならない? 逆に、「AAR」の方が、人々を元気にし、やる気もそそる?!
- I：要は、その限りのエビデンス(証拠→事実?)でしかない? ということですね?
- D：そういうことです! ですから、それは、「評価のための評価?」となるということ! 大切なのは、本当の成果、つまり、そこから何が生まれているのかということですが、そこが見えない、分からない? そうなると、結局は、用意されたエビデンス(証拠→事実?)だけが前面に出て、その手続き(資料づくり)だけが評価されることとなります?! そうなると、膨大な資料作成の割には、その成果は限られてくる? ということにもなります(多くが、徒労? ということにもなる?!)! (つづく)